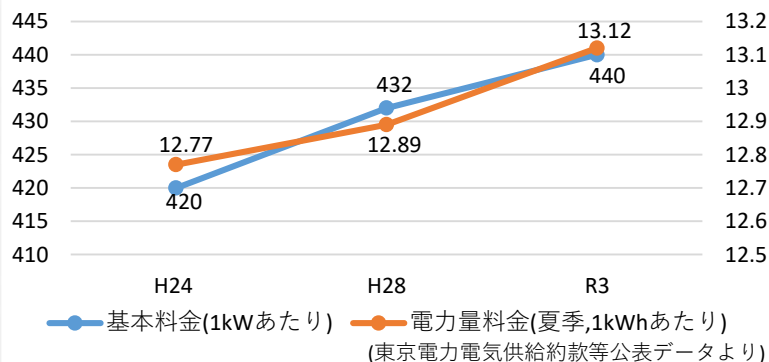


一人ひとりの節水の実践で 土地改良区の運営経費負担を軽減しましょう！

農事用電力(低圧)電気料金の推移 (単位:円)



近年の電気料金の値上がりは今後も続くことが予想され、ポンプ運転等に要する土地改良区運営経費の増加が全県的な課題になっています。

農業者の皆様が既に取り組まれている節水対策とあわせ、以下についてもご協力いただきますようご検討をお願いします。

農地の節水対策に取り組みましょう！（裏面に続く⇒）

漏水防止

- ✓ 畔塗りの実施、畦なみ板の設置
- ✓ 畦畔の定期的な点検・補修



田面排水の抑制

- ✓ 落水口を適切に管理しましょう。



適切な入水管理

- ✓ 水田への入水は、排水の状況を見て適切に管理しましょう。
- ✓ 用水のかけ流しは止めましょう。



参考:農地の節水対策に効果的な取組例

水位調節型落水口の設置

- 堰板の設置や塩ビ管の継ぎ足しなどで排水管理を行う従来の落水口に比べて、水位調整管の上げ下げのみで容易に排水管理を行うことができるため農業者の労力が軽減できます。
- 代掻き時等に、水位調整管を上げることで濁水の流出を抑えます。



水位調節型落水口

取っ手部分を持ち上げるだけで、落水する水位を高く設定できます。

浅水代掻きの実施

- 代掻き時は、水を入れすぎず、浅水で行うことで、用水量を抑えます。

【浅水代掻きのポイント】

- ①入水前に田面を均平化する。
- ②畦畔が崩れていないか確認する。
- ③排水口に止水板を設置する。
- ④土が7～8割程度見えるぐらいの入水量とする。
- ⑤田植え前の落水は行わず、自然落水により水位調整する。



浅水で代掻きする様子

自動給水栓・水位水温センサーの設置

- 田面排水を抑えるためには、こまめに給水栓操作を行うなど手間がかかりますが、こうした時間と労力を削減するために自動給水栓があります。
- 自動給水栓は、給水する時間や周期、必要な水位等の設定により、自動で給水・停止するため、手間をかけずに用水の節水が図れます。
- 水位調節型落水口等による適切な排水管理と組み合わせることで、田面排水を一層抑えることが出来ます。
- 水位水温センサーを設置すれば、水位と水温をスマートフォン等から確認することができ、よりきめ細かな用水管理が可能となります。



自動給水栓による給水の様子 (S社製品)



水位水温センサー設置の様子 (H社製品)

漏水等にも速やかに対応することが出来ます。

自動給水栓等の導入には、農業農村整備に係る各種の国補事業が活用できる場合があります。
興味のある方は、県農村計画課又は最寄りの農林事務所土地改良部門にご相談ください。

茨城県農林水産部農地局農村計画課
(令和4年3月作成)